

## 緑の担い手

# 緑の雇用研修を受講して

つくばね森林組合

大 図 泰 広



私は、帝京大学を卒業し、そのままつくばね森林組合に就職しました。私が森林組合に就職しようと決めたきっかけは、大学の卒業論文で「地球温暖化と太陽の黒点との関係性」という内容で研究していたのですが、その中で地球温暖化について調べていると、間伐などで二酸化炭素の吸収量が増えるなど、木々を減らしているのになぜか二酸化炭素が減るなど疑問

に感じ、調べているうちに森林などに興味をわき、この仕事に就きました。

しかし、林業という仕事は初めてのことで、チェーンソーや刈払機などの使用方法も分からず、一から学ぶ必要がありました。それで「緑の雇用研修」を受講することになったのです。

一年目の研修では、まずチェーンソーと刈払機の免許取得から始まり、たくさんの免許を取らせていただきました。免許の取得以外の研修では伐倒などがあり、その中では伐倒方向を決め、受け口の作り方から追い口の入れ方まで研修しました。伐倒、かかり木処理などの研修で教わったものは、一年たつたいまでも変わらない方法で作業しています。この一年目での研修では、基礎をしっかりと教わることでできとも感謝しています。

二年目になってからは、一年目とあまり変わらず伐倒やかかり木の処理方法などを研修するのですが、そこで習得状況などを検査されます。ですが、私はあまりうまく伐倒や造材などができませんのでとても大変でした。今後は、二年間の研修で培ってきた伐倒や造材はもちろんのこと、一年目で操作を習得した高性能林業機械のグラブブルやフォワーダ、プロセッサーを使用して、現場での作業の効率化に生かしていきたいと思っています。